

Planning and CoordinationMACHINE TIME EXECUTIONREPORT ( 2003-3 CYCLE)

Experimental Group	<b>T538</b>	Reporter	磯部 忠昭
Scheduled Period and Shift	2003/06/25 - 2003/07/02	Main, Sub, Para	
Experimenters :小沢・浜垣・犬塚・坂口・梶原・磯部・郡司・栗原・織田 ・澤田(KEK)・四日市(理化学研究所)			
SUMMARY OF EXECUTION AND RESULTS			
テスト実験内容			
1. TPC位置分解能・2粒子分解能・粒子同定測定実験			
2. GEM粒子同定実験			
テスト実験結果			
1. TPCの測定は終了し、位置分解能はx軸方向で140 $\mu$ m、y軸方向で2mmを得られた。 GEMについても $\pi$ オンによるシグナルを確認できた。			
2. 実験で使用したTOFの時間分解能は120psec、DCの位置分解能は160 $\mu$ mであった。			
3. 電子を対象とした実験ではガスチェレンコフをトリガーとして使用し、運動量- 1GeV/cでスピルあたり5個の電子ビームが得られた。			
EXECUTED MACHINE TIME, BEAM CONDITION, DOWN TIME etc.			
EXECUTED MACHINE TIME : 20shifts(160時間)中、約110時間がビーム時間			
そのうち、6/26 1:00-9:00(8時間)と 6/29 22:00-6/30 18:00(20時間)が加速器の影響によるBEAM DOWN TIMEであった。			
BEAM CONDITION : スピルに細かい構造が見られたが、我々の目的には問題なし。			
COMMENTS			